

【開催報告】令和7年度 ことの海会 地域連携推進会議

～地域に開かれた、透明性の高い施設運営を目指して～

社会福祉法人ことの海会では、施設運営の透明性を高め、地域社会の一員として信頼される施設であり続けるため、「地域連携推進会議」を開催いたしました。利用者様、ご家族、地域代表、学識経験者、行政担当者の皆様にお集まりいただき、活発な意見交換が行われました。

1. 開催概要

日 時：令和7年10月30日（見学）・31日（会議）

出席者：法人役職員、利用者代表、ご家族代表、地域代表、福祉学識経験者、

大村市障害福祉課、諫早市障害福祉課

2. 各事業所の主な取り組みと報告

各事業所の代表および利用者様より、今年度の振り返りと来年度の方針について報告を行いました。

① 鈴田の里（生活介護・施設入所）

安全対策：誤薬防止のため、指差し・声出し確認を徹底しています。

地域交流：地域の運動会や夏祭り、環境整備活動へ積極的に参加しています。

② きぼうの里（生活介護・施設入所）

環境改善：本館や別館のリフォームを実施し、活動しやすい環境を整えました。

事故防止：転倒などを防ぐため、設備等のハード面からの見直しを進めています。

③ 大村地域生活支援センター（包括型 GH）

高齢化対応：見守り機器（ルエットセサ-等）の導入や柔軟な勤務体制で安全を守ります。

自立支援：アパートでの一人暮らし（昨年度4名移行）や、一般就労に向けた支援を継続しています。

④ 地域生活支援センター琴楓（日中サービス支援型 GH）

医療・防災：訪問看護との連携による健康管理や、災害時（停電・断水）を想定した訓練を実施しています。

3. 頂いた主なご意見

委員の皆様より、今後の運営に活かすための貴重なご意見をいただきました。

【学識経験者より】 事故の手前である「ヒヤリハット」の事例を、職員間だけでなく法人全体で同時に共有する体制づくりが重要であるとご助言を頂きました。

【地域・ご家族より】 転倒時の衝撃を和らげる環境調整等、評価いただきました。また、居室での安全確保のため、センサー等の見守り体制強化への期待のお声を頂きました。

4. 今後の方針

事故防止においては精神論ではなく「環境要因を見直すこと（事故＝環境×行動）」が重要であるとの考えを改めて共有いたしました。頂いたご意見を真摯に受け止め、今後も入所施設やグループホーム、の支援において、利用者様がご自身の状況に合わせて住まいを選択できるよう、地域の福祉課題の解決拠点として専門性を高めてまいります。